

【授業表題】

現代世界における戦争と平和

【授業の形態・方法・内容】

現代世界における戦争と平和をめぐる諸問題につき、具体的な様相と構造、歴史的な背景、政治・経済・文化との関連など、幅広く検討を行う。現代世界の戦争と平和をめぐる問題と課題を明らかにし、戦争のない平和な社会を築いていく条件は、どのようなものであるのかについての知見を深める。

現在進行中の戦争や紛争、安全保障政策を扱うため、世界情勢の変動によって、授業の項目内容や順序について変更がありうる。

フィードバックは必要に応じて適宜授業中等に行う。

【到達目標】

現代世界における戦争と平和をめぐる諸問題についての、基礎知識、基礎的理解の習得を目標とする。

【この授業科目とディプロマポリシーに明示された学修成果との関連】

(現代法学部 DP2)現実の社会問題に触れながら、法と政策に関する専門知識を適切に修得し、社会を多角的に考えることができる能力

(現代法学部 DP3)法と政策に関する専門知識と思考方法を活かし、社会における諸問題を発見し、課題の本質を考察して解決に導くことができる実践的能力

【事前・事後学習】

授業の前後、指定基本参考書を読むことで、授業内容の理解は深まるであろう。事前・事後学習に4時間程度は必要である。また、新聞の政治・社会・国際面を丁寧に読む慣習を身につけることを強く勧める。この授業だけでなく、ほかの多くの授業、そして就職などでも役に立つことだろう。

【授業計画】**第1回 序論：平和学とは何か**

(以下、授業の進行具合、世界情勢の変動および講義資料の入手状況で、テーマの順序、カバーするテーマ・内容に変化があり得る。)

第2回 現代世界における戦争と平和をめぐる諸問題の歴史的位相**第3回 現代の戦争 1：ロシア・ウクライナ戦争 経過****第4回 現代の戦争 2：ロシア・ウクライナ戦争 歴史的背景****第5回 現代の戦争 3：パレスチナ戦争 歴史と現況****第6回 20世紀の戦争 1：総力戦としての第一次世界大戦****第7回 20世紀の戦争 2：第二次世界大戦の歴史的意義****第8回 20世紀の戦争 3：ベトナム戦争 小テスト 1**

第9回 核兵器と冷戦

第10回 冷戦の終結と冷戦後グローバル社会の到来

第11回 近現代日本の戦争と植民地支配 1 専制的軍国体制の形成

第12回 近現代日本の戦争と植民地支配 2 総力戦と玉砕

第13回 戦争責任・植民地支配責任 1 東京裁判、BC級戦犯裁判

第14回 戦争責任・植民地支配責任 2 従軍慰安婦・徴用工問題

第15回 沖縄米軍基地問題と日米安保体制 小テスト2

【評価方法】

第2回目以降から、毎回出席をとる。出席は、manabaの出席カードシステムで取る。出欠のカウントは厳格に行う。5回以上欠席した場合、理由の如何を問わず不合格とする。インフルエンザ、新型コロナによる欠席も、この4回まで許容される欠席の範囲内で対応する。それ以上の欠席は不可。

成績評価は、学期中授業内で行う2回の小テストで行う（100%）。小テストを行う回の授業は、オンライン（オンデマンドの文書配信）で行う。したがって、小テストもmanabaを使ってオンラインで行う。小テストが行われる回の授業は、小テスト受験をもって出席を取る。小テストは15点満点で、2回の小テストの合計点が、29点以上がS、26点以上がA、23点以上がB、18点以上がC、17点以下は不合格。出席が良好でも、17点以下は不合格となる。逆に、18点以上でも、欠席が5回以上であれば不合格となる。なお、小テストの点数が若干合格点に足りない、あるいは、欠席回数が不合格ラインを若干オーバーしている場合に、レポートの提出で救済が行われることがある。ただし、欠席が7回以上の場合、または小テスト合計点が12点以下の場合、レポートを提出しても救済しない。詳細は、授業開始時にmanabaにアップされる受講要領を読むこと。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

内海愛子・山脇啓造『歴史の壁を超えて』法律文化社、藤原 修「ヒバクシャの世紀」『岩波講座アジア・太平洋戦争 第8巻 20世紀の中のアジア・太平洋戦争』ほか、授業時に説明する。

【特記事項】

【開講期・曜日時限・ペア・教員名】

開講期・曜日時限が下記の表で示されていますが、履修できる曜日時限は学年・学科等により異なる場合があります。自分の「履修登録」画面に表示される曜日時限のみ履修登録することができます。

開講期	曜日時限	ペア	教員名
1期	木2		藤原 修